

# クリシュナ神、神聖な愛の具現

## シャーンバヴィー・クリスチャン

クリシュナ神は、ヴィシュヌ神の化身、あるいは生まれ変わりの一人で、神聖な知識を授ける者として崇敬されています。例えば、クリシュナ神の教えの多くは、世界中で知られている最も影響力のある教典の一つ、『シュリー・バガヴァッド・ギーター』に含まれています。『シュリー・バガヴァッド・ギーター』は、人類の精神的、倫理的英知の遺産の礎です。

クリシュナ神の生誕は、クリシュナ・ジャンマーシュタミーとして知られ、インドの太陰暦では、シュラーヴァナの月の月が欠け始めてから 8 日目に当たります。クリシュナ・ジャンマーシュタミーの夜はモーハラトウリと呼ばれ、一年の中で最も縁起の良い3夜のうちの1夜と考えられています。この3夜の一刻一刻がおめでたく、この時に行う精神修行には、より高い力が与えられます。

クリシュナ神誕生の翌日は、ダヒー・ハーンディーとも呼ばれるゴーパール・カーラーを祝います。このお祝いは、クリシュナ神の子ども時代に敬意を表して行われます。クリシュナ神が子どもの頃、彼の居る所では奇跡やいたずらが起こったもので、多くの物語があります。でも、こういう物語すべてには、学ぶべき、より深い教訓があるのです。クリシュナ神の、一見「いたずら」と思えることには、必ずより壮大な目的がありました。つまり、彼のいたずらは見せ掛けであり、人々に宇宙の秘密を分け与えたり、モークシャ、つまり解放を授けたりする手段だったのです。赤ちゃんのクリシュナを愛した者、献身的に尽くした者たちは、愛をもって応えられたのでした——そして、これがクリシュナの愛、最も純粹で、最も神聖で、最も魅力的な愛であり、その大きさは尽きることがなく、際限のないものでした。

ダヒー・ハーンディーの楽しいお祭りは、赤ちゃんのクリシュナが、母親のつぼからバターや凝乳をかすめ取るのがどんなに好きだったか、母親がつぼをクリシュナの手の届かない所に置いて、うまくいった試しがないという物語をハイライトにしています。ゴーパール・カーラーの日には、人々はダヒー、つまりヨーグルトを、ハーンディーという土製のつぼに入れて、かなり高い所につり下げます。若い男性たちや少年たちは人間のピラミッドを作り、つぼを取って割ります。一方、少女たちは声援を送り、クリシュナ神についての熱狂的な歌を歌います。

クリシュナ神が大人になる頃まで、時を進めましょう。クリシュナ神はクルクシェートラの戦場で戦う頑強な戦士アルジュナの師であり、助言者でした。『シュリー・バガヴァッド・ギーター』を書き取らせる中で、クリシュナ神は自分がこの地球に生誕する目的をアルジュナに説明します。

यदा यदा हि धर्मस्य ग्लानिर्भवति भारत ।  
अभ्युत्थानमधर्मस्य तदात्मानं सृजाम्यहम् ॥

परित्राणाय साधूनां विनाशाय च दुष्कृताम् ।  
धर्मसंस्थापनार्थाय सम्भवामि युगे युगे ॥

*yadā yadā hi dharmasya glānirbhavati bhārata.  
abhyutthānamadharmasya tadātmānaṁ sṛjāmyaham*

*paritrāṇāya sādūnāṁ vināśhāya cha duṣkṛitām  
dharma-saṁsthāpanārthāya sambhavāmi yuge yuge*

おお、アルジュナ、バーラタ王朝の末裔(まつえい)よ、ダルマが希薄になり、アダルマが強大になる時にはいつでも、私は姿を現す。<sup>1</sup>

善良な者を庇護(ひご)して邪悪な者を破壊するため、ダルマを確立するために、私はいかなる時代にも生まれる。<sup>2</sup>

探究者たちは時代を通じて、クリシュナ神と彼の教えや彼の人生の物語に魅せられてきました。クリシュナ神のフルートの音は、特別な崇敬を呼び起こしてきました。クリシュナ自身の生涯の間、ヴリンダーヴァンの牛飼いであるゴーピーたちは、彼のフルートの美しい旋律のトリルに魅せられ、その音を聞いたたびに、何を行っていてもそれをすぐに中断し、その音について行きました。そして続いて、ラースリーラーという聖なる愛の踊りを踊ったものでした。

この愛には人々を引き付ける力があり、それはクリシュナ神のそばに実際にいた人たちだけが感じたわけではありませんでした。クリシュナ神の信奉者たちは、何世紀にもわたって、自分の心の中に湧き起こるこの愛を感じ、自分の存在の内側で響く彼のフルートの音楽を聞いてきました。このような体験にひらめきを覚え、偉大な作家、詩人、歌手、音楽家、ダンサー、芸術家、語り手、学者、聖人たちは、クリシュナ神をたたえ、傑作を残しました。そして、こういう人たちだけではなく、あらゆる文化、職業の人々が、クリシュナ神の神聖な存在を体験し、ひらめきを感じ、癒やされてきました。

シッダ・ヨーガの道では、神のさまざまな名前をチャンティングします。しかし、クリシュナ神をたたえるチャンティングには、いつも何か特別なものがあります。ナーマサンキールタナで、クリシュナ神の数々の名前の一つを聞くとすぐに、人々の顔に大きなほほ笑みが広がっていくことに、私は気づきました。クリシュナ神をたたえるシッダ・ヨーガのナーマサンキールタナの一つに、「クリシュナ・ゴーヴィンダ」があります。このチャンティングは、バイラヴィー・ラーガを基調にした伝統的なインドのメロディーで、愛する神への献身と切望のラーサを呼び起こします。ジャンマーシュタミーのお祝いに最もふさわしいこのチャンティングでは、私たちは若々しいクリシュナをたたえて歌います。

*Krishna Govinda, Govinda Gopala,  
Krishna Murali Manohara Nandalala*

クリシュナ ゴーヴィンダ ゴーヴィンダ ゴーパーラ

クリシュナ ムラリー マノーハラ ナンダラーラ

おお、クリシュナ神、聖なる牛飼い！  
おお、クリシュナ神、牛の庇護者！  
おお、ナンダの愛する息子、  
あなたはそのフルートで人の心をとりにする！



© 2021 SYDA Foundation®. 著作権所有。

---

<sup>1</sup> *Shri Bhagavad Gita*, 4.7; trans. Swami Swarupananda, *Srimad-Bhagavad-Gita* (Calcutta: Advaita Ashrama, 1975), p. 99; English rendering © SYDA Foundation.

<sup>2</sup> *Shri Bhagavad Gita*, 4.8; ed. Swami Kripananda, *Jnaneshwar's Gita: A Rendering of the Jnaneshwari* (Albany, NY: SUNY Press, 1989), p. 48.